

2024 年 5 月 20 日作成 Ver.1.2

《情報公開文書》

転移性副腎腫瘍に対する手術・放射線・薬物療法の治療成績に関する検討

研究の概要

【背景】

副腎は悪性腫瘍の転移を受けやすい臓器の 1 つとされ、様々な臓器の癌からの転移が生じる可能性があります。転移性副腎腫瘍は多くは無症状であり、他の疾患の検査や経過観察中に偶然見つかることも多いです。転移性副腎腫瘍の予後は原発巣の悪性腫瘍の種類によって変わりますが、5 年生存率は 20～45%となっています。転移性副腎腫瘍は、その他の副腎腫瘍と比べて症例数が少ないため、治療状況や予後に関して、単施設での報告が少ないのが現状であり、転移性副腎腫瘍の治療状況およびその成績の解析は必要と考えています。

【目的】

本研究は当院で転移性副腎腫瘍に対する治療が行われた患者さんを対象に症例を検討し、それぞれの治療法における予後の関連因子を探索することを目的とします。

【意義】

この研究を行うことで、転移性副腎腫瘍に対する治療法をさらに発展させ、医学に貢献することができると考えています。

【方法】

長崎大学病院泌尿器科・腎移植外科にて転移性副腎腫瘍の治療が行われた患者さんについて、患者背景、検査所見、理学的所見など通常診療にて得られた情報を用いてステージごとの治療内容、再発、転移出現時までの期間、その後の治療内容、初期治療開始 5 年経過後の生存の有無を解析します。また、治療による有害事象の有無、内容の検討も行います。

対象となる患者さん

2008 年 9 月 1 日～2025 年 12 月 31 日の間に長崎大学病院泌尿器科・腎移植外科で転移性副腎腫瘍に対して治療された患者さんです。

研究に用いる試料・情報

●研究に用いる情報

下記の情報を診療録より収集します。

臨床所見(年齢、性別、身長、体重、ECOG Performance Status)

・既往歴、生活歴、家族歴

・検査結果（血液検査：白血球数、白血球分画、赤血球数、血小板数、Ca、P、Na、CRE、BUN、AST、ALT、ALP、LDH、CPK、CRP、Alb、腫瘍マーカー(CEA,SCC,NSE,pro-

GRP,CA19-9 など)

- ・尿検査（白血球数、赤血球数、蛋白、糖、円柱、結晶）、尿細胞診（クラス）
- ・遺伝子検査(Foundation one ,Foundation one liquid など)
- ・画像検査（膀胱鏡（局所再発の有無、性状）、エコー（水腎症の有無、転移、局所再発の有無）、CT（リンパ節、多臓器転移の有無、場所）、MRI（局所病変、深達度）、骨シンチ、PET-CT(遠隔転移の有無、場所)
- ・病理学的検査（組織学的分類、異型度、深達度、リンパ節転移、断端の評価）
- ・治療内容（手術療法（手術日、術式、手術時間、出血量）化学療法(投与日時、内容)、放射線療法（日時、照射量）
- ・有害事象内容（手術、化学療法、放射線時の入院、投薬を必要とする副作用）
- ・治療経過

本研究で利用する情報等について詳しい内容をお知りになりたい方は下記の「お問い合わせ先」までご連絡ください。

情報の利用開始予定日

本研究は 2024 年 5 月 30 日より「研究に用いる情報」を利用する予定です。

あなたの情報をこの研究に使われたくない方は下記の「問い合わせ先」までご連絡頂ければ対象者から外します。その場合もあなたの治療等に不利益になることはありません。

ご連絡のタイミングによっては対象者から外せない場合もあります。

あらかじめご了承ください。

研究実施期間

研究機関長の許可日～2028 年 12 月 31 日

研究実施体制

研究責任者	所属：長崎大学病院 泌尿器科・腎移植外科 氏名：今村 亮一 住所：長崎県 長崎市 坂本 1-7-1 電話：095（819）7340
試料・情報の管理責任者	長崎大学病院 病院長

問い合わせ先

【研究の内容、情報等の利用停止の申し出について】

長崎大学病院 泌尿器科・腎移植外科 福島 始

〒852-8501 長崎市坂本 1 丁目 7 番 1 号

電話：095（819）7340 FAX 095（819）7343

【ご意見、苦情に関する相談窓口】（臨床研究・診療内容に関するものは除く）

苦情相談窓口：医療相談室 095（819）7200

受付時間：月～金 8：30～17：00（祝・祭日を除く）